



**井上寿一 Inoue Toshikazu**

1956年生。学習院大学法学部教授。日本政治外交史。著書に『危機のなかの協調外交——日中戦争に至る対外政策の形成と展開』(山川出版社、1994)、『昭和史の逆説』(新潮新書、2008)、『山県有朋と明治国家』(NHK ブックス、2010)、『新書 昭和史——短い戦争と長い平和』(講談社現代新書、2025)他。



**加藤陽子 Kato Yoko**

1960年生。東京大学名誉教授。日本近代史。著書に『模索する1930年代——日米関係と陸軍中堅層』(山川出版社、2012)、『昭和天皇と戦争の世紀』(講談社学術文庫、2018)、『天皇と軍隊の近代史』(勁草書房、2019)、『となりの史学』(毎日新聞出版、2025)他。



**楠木賢道 Kusunoki Yoshimichi**

1961年生。中央民族大学(中国)特聘教授。東洋史。著書に『清初対モンゴル政策史の研究』(汲古書院、2009)、『森繁久彌・精神史の源流——幕末・明治から昭和戦前まで』(2022)、編著に後藤新平『国家とは何か』(現代語訳・解説、2021)『最後の後藤新平』(共編、2026、以上藤原書店)他。



**伏見岳人 Fushimi Taketo**

1979年生。東北大学大学院法学研究科教授、同・公共政策大学院長。日本政治外交史。著書に『近代日本の予算政治 1900-1914』(東京大学出版会、2013)、監修に『後藤新平論集』(2025)、編著に『最後の後藤新平』(共編、2026、共に藤原書店)他。また、オンライン版『後藤新平文書』(丸善雄松堂、2021)の監修・解題を担当。



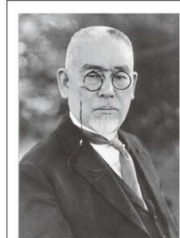
〈コーディネーター〉**橋本五郎 Hashimoto Goro**

1946年生。読売新聞論説委員、政治部長、編集局次長を歴任し06年より特別編集委員。著書に『範は歴史にあり』(2010)、『「二回半」読む 書評の仕事 1995-2011』(2011)、『宿命に生き 運命に挑む』(2018)、『虚心に読む 書評の仕事 2011-2020』(2020、以上藤原書店)。



〈新刊紹介〉**春山明哲 Haruyama Meitetsu**

1946年生。早稲田大学台湾研究所招聘研究員、日本台湾学会名誉理事長。近代日本・台湾関係史、図書館文化史。元国立国会図書館専門調査員。著書に『近代日本と台湾——霧社事件・植民地統治政策の研究』(2008)、『後藤新平の「衛生の道」とは何か』(2025)、『台湾の歴史 大全』(共編著、2025、以上藤原書店)他。



**後藤新平とは……**  
一八五七年、水沢(現岩手県奥州市)の武家に生まれ、藩校をへて福島須賀川医学学校卒。八〇年、弱冠23歳で愛知病院院長兼愛知医学校長心得に。板垣退助の岐阜遭難事件に駆けつけ名を馳せる。八三年内務省衛生局長に。九〇年春ドイツ留学。帰国後衛生局長。相馬事件に連座し衛生局を辞す。日清戦争帰還兵の検疫に手腕を発揮し、衛生局長に復す。  
一八八八年、児玉源太郎総督の下、台湾民政局長(後に民政長官)に。台湾近代化に努める。一九〇六年九月、初代満鉄総裁に就任、満鉄調査部を作り満洲経営の基礎を築く。〇八年夏より第二次・第三次桂太郎内閣の通相。鉄道院総裁・拓殖局副総裁を兼ねた。一六八年秋、寺内内閣の内相。一八年春外相に。  
一九二〇年暮東京市長となり、腐敗した市政の刷新、市民による自治の推進、東京の近代化を図る。「八億円計画」を提唱。二二年秋アメリカの政治学者ピアードを招く。二三年春、ソ連極東代表のヨツフェを私的に招き、日ソ国交回復に尽力する。  
一九二三年の関東大震災直後、第二次山本権兵衛内閣の内相兼帝都復興院総裁となり、再びピアードを緊急招聘、大規模な復興計画を立案。政界引退後は、東京放送局(現NHK)初代総裁、少年団(ボーイスカウト)総長を歴任、「政治の倫理化」を訴え、全国を遊説した。一九二九年遊説途上、京都で死去。

**後藤新平とは……**

**■第20回「後藤新平賞」授賞式**  
(本賞) **大石芳野 様** (写真家)

〔式次第〕  
13時開会  
主催者挨拶  
賞贈呈  
受賞者講演  
14時閉会(予定)

後援・読売新聞社

〔近刊〕**後藤新平日記(上) 明治篇**  
後藤新平日記研究会編  
解説 千葉功 伏見岳人 はしがき 加藤陽子

〔決定版〕**正伝 後藤新平** (全八分冊 別巻一)  
鶴見祐輔著 / 一海知義校訂  
本巻計五四五・〇〇円  
別巻 **後藤新平大全**  
後藤新平の全貌が貝渡せる便覧。  
五二八〇円

**後藤新平と五人の実業家**  
(波沢栄・益田孝・安田善次郎・大倉喜八郎・浅野総一郎)  
後藤新平研究会編著  
二七五〇円

**後藤新平の「仕事」**  
藤原書店編集部編 [附] 小伝 後藤新平  
一九八〇円

**震災復興 後藤新平の120日**  
(都市は市民がつくるもの) 後藤新平研究会編著  
二〇九〇円

**一人二人三人に人**  
(近代日本と「後藤新平」100人) 後藤新平研究会編  
二八六〇円

**時代の先覚者・後藤新平 1857-1929**  
御厨貴編  
三三二〇円

**後藤新平の「衛生の道」とは何か**  
春山明哲  
三九六〇円

**後藤新平の劇曲平和** 加藤陽子 解説  
後藤新平案 平木白星稿 特別寄稿 出久根達郎  
二九七〇円

**後藤新平 国難来** 鈴木一策 編・解説  
一九八〇円

**後藤新平 政治の倫理化**  
後藤新平研究会編 新保祐司解説  
二四二〇円

**後藤新平 後藤新平の処世訓** (現代語訳)  
平木白星編 楠木賢道編・解説  
二九六〇円

**後藤新平 後藤新平論集**  
立石駒吉編 伏見岳人監修・解説  
三三〇〇円

**後藤新平 国家とは何か**  
楠木賢道編・解説(原書「通徳国家と政治倫理」)  
政教社、一九七七年  
二七五〇円

**後藤新平 国難来** 鈴木一策 編・解説  
一九八〇円

**後藤新平 政治の倫理化**  
後藤新平研究会編 新保祐司解説  
二四二〇円

**後藤新平 後藤新平の処世訓** (現代語訳)  
平木白星編 楠木賢道編・解説  
二九六〇円

**後藤新平 後藤新平論集**  
立石駒吉編 伏見岳人監修・解説  
三三〇〇円

**後藤新平 国家とは何か**  
楠木賢道編・解説(原書「通徳国家と政治倫理」)  
政教社、一九七七年  
二七五〇円

\*表示の価格は税込定価